

デジタル力、アナログ力

まずは、デジタルは新しく、アナログは古い、という印象を拭い去りましょう。

これは表現法の違いであり、デジタルは数値化、記号化した非連続の表現で、アナログは線や面などによる連続した表現です。デジタル化すると一般化して分かり易く、伝達し易いので、盛んにデジタル化が叫ばれていますが、実際の個人の生活はアナログの世界です。従いましてデジタルに振り回されることなく、使いこなし、アナログで自分の価値判断をしっかりと表現して行動することが、「できる！」と言われるための必要条件になります。

一定の規則の機械的な仕事は、デジタル化すれば間違いなく、正確に行なえますので、デジタル化で仕事効率は上がります。しかし、実生活は不確定要素や条件が多々ある連続したものです。手術では、ナビゲーションなどのデジタル機器は使用しますが、個々に条件が違うため、その場での判断力と技術力が重要で、手術は極めて感覚的アナログ的です。そんな中で、同時に恐怖心などの余分な感情を消すデジタル脳を使い、冷静な手術マシーンになったりもします。アナログ感覚は日々の中で、五感を使うことを意識すると鍛えられます。

デジタル化とアナログ化をうまく使いこなすと、ストレスや疲れはぐっと減ります。デジタルで方向性を決め、フレームを作り、アナログで繋ぎ、充実させます。日本はデジタル後進国などと揶揄されますが、逆に四季折々のアナログ的豊かさがある幸せ、を感じます。基本的な勉強と実践を繰り返すことで、デジタル力とアナログ力は養われます。熱く感情的になりそうときにはデジタル力、単調でやる気が出ないときはアナログ力を発揮して、生き生きと日々を過ごしましょう。

